Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

CASBEE札幌(暫定版)　評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.0　|使用評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.1)

1-1 建物概要

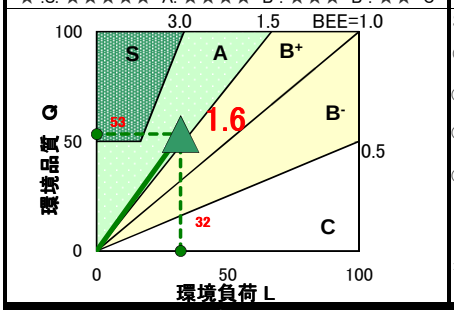
建物名称	(仮称)GGCビル	階数	地上7F地下2F
建設地	札幌市中央区大通東4丁目1-19、5-	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	273 人
気候区分	1地域	年間使用時間	2,920 時間/年
建物用途	物販店,病院,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年4月　予定	評価の実施日	2015年2月16日
敷地面積	1,461 ㎡	作成者	渡邊 信夫
建築面積	1,118 ㎡	確認日	2015年2月16日
延床面積	5,331 ㎡	確認者	渡邊 信夫

1-2 外観

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

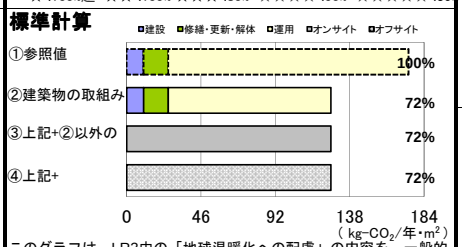
= BEE1.6

★:S: ★★★★★ A: ★★★★ B⁺: ★★★ B⁻: ★★ C



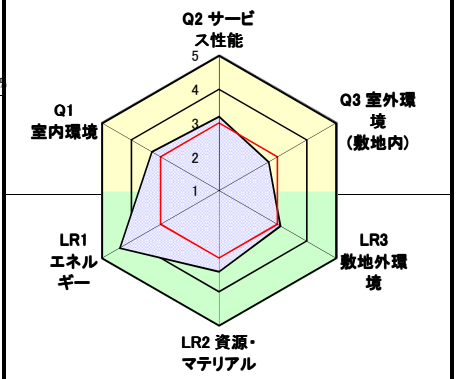
2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

☆:100%超 ☆☆:100% ☆☆☆:80% ☆☆☆☆:60% ☆☆☆☆☆:30%



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

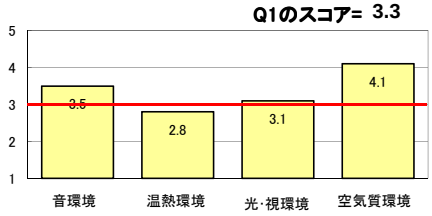
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



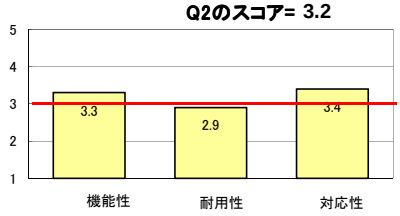
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　　Q のスコア= 3.1

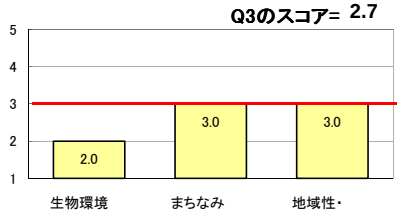
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.3



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 3.2

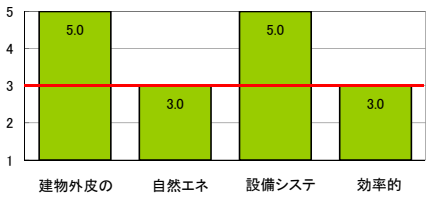


Q3 室外環境(敷地内)　Q3のスコア= 2.7

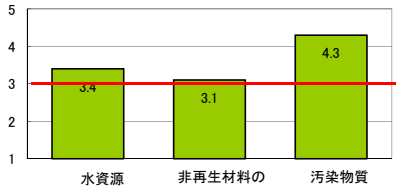


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.7

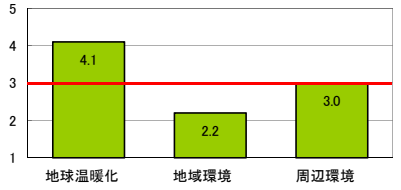
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 4.4



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 3.4



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.1



3 設計上の配慮事項

総合

今回の建物は診療所であり、用途区分では住宅系用途となる。建築物の環境品質の中で、特に音環境(開口部遮音性能)、温熱環境(外皮性能)、空間のゆとり(階高)に高い品質としました。
建築物の環境負荷低減性では、特に建物外皮の熱負荷制御、設備システムの高効率化、水資源保護(節水)、汚染物質含有材料の使用回避(F☆☆☆☆の採用、地球温暖化係数の小さい断熱材)し、地球環境にやさしい建物づくりをおこなった。

その他

0

W (Global Waiming) 省エネルギー・省資源

外壁、屋根、床において断熱性能の向上、複層ガラス、2重サッシを採用することにより熱負荷低減に配慮した。
給水管に水道用ﾎﾟﾘｴﾁﾚﾝ管、塩ﾋﾞﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管、汚水雑排水に硬質塩ﾋﾞ管を採用することにより長寿命化を図った。
発泡材(断熱材)にＨＦＯを採用(ODP=0、GWP=1)することにより、地球温暖化対策への取組みをした。

G (Green) 緑化

生垣、中木を１階部分、高木を３階部分の屋上に設置し、緑化率を40.3%を確保することにより、まちなみに心地よい緑の景観を形成する取組みをした。

S (Snow) 雪処理

敷地内の雪処理は、歩道上公開空地部分で人と車の動線部分をロードヒーティングを設置することにより、除排雪の軽減を図っている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency(建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality(建築物の環境品質)、L: Load(建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction(建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency(建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される